300文字小説

学無

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
３００文字小説

【Ｎコード】
Ｎ１７０９Ｖ

【作者名】
学無

【あらすじ】
これは
「東京新聞：３００文字小説」という東京新聞社が行っている読者投稿企画に向けて書きなぐった作品集です。

作品は全て３００文字程度の掌編です。
ちょっとした箸休め程度に読んでいただければ幸いです。
また、これを読み、「東京新聞：３００文字小説」にご興味をもたれたのなら、本家に投稿してみてはどうでしょうか。

以下のＵＲＬに詳細があります。
ｈｔｔｐ：／／ｗｗｗ．ｔｏｋｙｏ－ｎｐ．ｃｏ．ｊｐ／ａｒｔｉｃｌｅ／ｎｏｖｅｌ３００／

作品リスト

作品は全て３００文字程度の掌編です。
ちょっとした箸休め程度に読んでいただければ幸いです。
また、これを読み、「東京新聞：３００文字小説」にご興味をもたれたのなら、本家に投稿してみてはどうでしょうか。
詳細はこちら。
ｈｔｔｐ：／／ｗｗｗ．ｔｏｋｙｏ－ｎｐ．ｃｏ．ｊｐ／ａｒｔｉｃｌｅ／ｎｏｖｅｌ３００／

以下は本家ホームページからの引用です。

「３００文字小説」は、本文を３００文字（句読点など記号を含む）以内に制限して仕上げる超短編小説。文字制限を除けば、内容は自由。あなただけの着想を３００文字に込めた傑作をお待ちしています。

引用終了。

作品リスト
◇１５光年の距離
◇聞きたいこと
◇一番の夢
◇いつもそばで
◇おーさま、だーれだ
◇終わり方を教えてもらってません。
◇あの時の　ｗｈａｔ　ｎｅｗ！（２０１１／８／１８）

随時更新予定

１５光年の距離（前書き）

そうだ七夕をネタにしよう！
と思い立ち書いた作品です。
ちなみに当時はまだ春だった。。

１５光年の距離

彦星はとうとう織姫にぴったりの反物を完成させた。
「すばらしい出来だ。完成まで１５年がかかってしまったけど、きっと彼女にぴったりだ」
彦星はいても立ってもいれられず、織姫に手紙を書いた。

キミに似合う反物ができたんだ。これからすぐ君に届けに行くよ。

手紙を受け取った織姫も嬉しくなって、彦星の到着を今か今かとそわそわし始めました。

少しして、織姫は手紙を届けてくれた人がまだいることに気づいて赤面しました。
けれど、その人はにこりと笑って彦星の反物を手渡しました。

「キミの喜ぶ顔が見たくて、新幹線にのってきたんだ」
帽子を取った彦星は、織姫にそう言いました。

聞きたいこと（前書き）

小難しいことはすらすら答えられるのに、自分の将来になると……
そんな皮肉な作品です。

聞きたいこと

「人はどこから生まれてくるの？」
「お母さんのお腹の中からさ」

「じゃあ、人はしんじゃうと、どこに行くの？」
「天国にいるご先祖に会いに行くのさ」

「なるほど。だったらどうして犯罪はなくならないの」
「犯罪がなくなったら、警察の仕事がなくなっちゃうだろ？」

「なら、日本人は他の国の人と仲が悪いのは？」
「それは、日本人が昔、世界の人々にひどいことをしたからだ。けど、今はもう
仲直りしてるはずだよ。どっちも見栄っ張りなだけでさ」

「ふ～ん」
「聞きたいことはもうそれだけかい？」
「じゃあ、もう一つだけ」
「ふふ、何でも聞いてくれ」

「おじさんは何がしたいの？」
「……」

一番の夢（前書き）

皆さんの一番の夢はなんでしょう？
リア充ならこんな風に答えるんじゃないかな、と思い書きました。

一番の夢

僕は友人2人と、『一番幸せな夢』について話していた。

1人目が自信満々に『お金持ちになる夢』と答えた。

「だってさ、お金があれば、欲しいものが欲しいだけ買える！」

なるほど。賛成1。

けど、と2人目が『モテモテになる夢も捨てがたい』と口を挟む。

「女が選び放題なんだぜ？　ひゃほーって感じじゃね？」

いまいち。賛成0。

「じゃあ、お前は何なんだ？　さっきから反対ばっかじゃん」

2人目にせっつかれて、僕は頭を掻きながら『夢を見ている夢かな』と答えた。

意味不明。賛成0。

やっぱりね、と肩をすくめて僕は補足した。

「だって、夢でやりたいことがないのは、今が充実してるってことじゃん？」

いつもそばで（前書き）

落ち込む人を慰めるのはすぐそばで見ているあなた。

いつもそばで

すっかり暗くなった帰り道。
低い夕日を背にして男の子が、俯いて歩いてる。足取りは重い。
前髪の陰になって、表情は鎮痛に沈んでる。
学校でとても辛い事があったのだ。今日返却されたテストの結果が全然だった。
今度こそは、と一生懸命頑張ったのに、一歩届かなかった。とても悔しくて、泣きたかった。
見かねた先生は、穏やかに微笑んでぽんと頭を撫でてくれた。
「次は、絶対百点が取れるよ。頑張れ」
家に着いたら、両親はきっとこう労う。
「今回は残念だったな。次は頑張れ」
皆、『次』に目を向ける。
だけど、ボクは知ってるよ。今まで、沢山努力したって解ってる。
だってボクは君の影。
今だって、正面から見守ってる。

おーさま、だーれだ（前書き）

いまの政治ってこんな感じなのかな、と浅慮ながら思う小市民でした。

おーさま、だーれだ

「んじゃ、いくぜ？　おーさま、だーれだ」
……。

……あれ？

……おーい。

そっか。いないのか王様。そうかそう――いや、待て待て！　誰だよっ？　隠してないで王様なれよ！　俺？　俺は違うよ！　いいか？　もう一度言うぞ？　せーのっ、

「おーさま、だーれだ」
……誰も名乗りあげない。それどころか、
『……』
お互いに相手の事を牽制している。なんだよ。周囲の目なんて一蹴すればいい。やりたい放題だ。指図し放題。世界は俺様が回す……すんません、調子こきました。

「はあ、もしかしたら手違いか。回収するから目つぶれ」
そうして回収した割り箸全てに赤い印があった。

「なら俺が王様な」

終わり方を教えてもらってません。（前書き）

何を隠そう、拙僧自身がこう言いたい。

終わり方を教えてもらってません。

「これにてマネー研修は終了です」
私がそう締めくくると、会議室に集まっていた四人の実習生は徐に立ち上がり、声をそろえて「ありがとうございました！」とお辞儀をした。角度はきっちり３０度。
「うんうん。いいですね」
『ありがとうございます』
また一斉に頭を下げる。
研修は今日で終了だ。私ははなむけ代わりに、これまで研修を振り返り、一人一人の成長した点を特別に褒めていった。
皆、微笑みながら頷いていた。
これで大丈夫だな。私も安堵して部屋を後にする。
そこでふと気づく。研修生はまだ、微笑みながら立ち尽くしている。
「どうしましたか」
私が聞くと、１人がこう答えた。
「すみません。講習終了時のマナーを教えてください」

あの時の（前書き）

電車に揺られる3分間…

貴重な睡眠時間です。

あの時の

3分間。
彼女が乗り込んできて、次の駅で降りていく。
たった3分間。
僕の隣でうつらうつら舟をこぐ。
試験疲れだろうか。バイトや部活が忙しいだろうか。本が面白すぎて夜更かししてしまったのだろうか。
時には手に持つ参考書が落ちそうになり、あわてて拾ってあげる。
時にはマフラーがずれて、そっとかけなおす。
肩に乗る甘い吐息に、弾む鼓動で起こさないよう必死に押さえ込んだ。

そんな日が続き、ある日、隣にはサラリーマンが隣に座った。
次の日も、その次の日も。

そっか。彼女はどこかの大学に受かったのか。
一週間ほどして、僕はふっと笑った。

あの駅に着き、あくびを漏らしたとき、一人の大学生が乗ってきた。

「あ、あの！　今までありがとうございました」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1709v/

300文字小説

2011年10月7日23時36分発行